湘南鎌倉総合病院 麻酔科専門医研修プログラム（基幹施設）

I. 専門医制度の理念と専門医の使命

１） 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛･緩和医療などの領域において, 患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

２） 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である

麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。

同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う

II. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムは神奈川県横須賀・三浦二次医療圏（横三地区）のみならず、周辺地域（神奈川県全域～静岡県東部伊豆方面）の急性期医療を担っている湘南鎌倉総合病院（責任基幹施設）を中心としたプログラムである。基幹施設では豊富な心臓血管麻酔を経験するが、それぞれ特徴のある施設との連携により、小児麻酔、産科麻酔、脳外科や呼吸器外科麻酔に加え、集中治療、ペイン・緩和医療、地域医療など、麻酔科専門医として求められる（言い換えれば専門医試験で問われる）内容を満遍なく学ぶ機会を得ることができる。

４年間のプログラムを完遂することにより、必要な麻酔知識・技術の習得をして整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成して頂きたいが、それに加えて最先端の麻酔科学へのアプローチや地域医療に貢献できる麻酔科専門医となることを目標としている。

日常臨床業務に加えて、医師として必要な研究の要素として学会発表や論文作成も指導する。初めは一例や数例報告から始まるだろうが、やがて clinical question を research question にして、後むきあるいは前向き研究、そして基礎研究やランダム化プラセボ対照比較試験（RCT）なども本人の希望や努力に応じて指導できる体制がある。2024 年度からは長年大学病院で勤務したプログラム責任者が就任したため、組織としてもこのような教育体制を強化していると

ころである。国内外の留学もプログラム責任者の関連で複数の候補があり、また病院として金銭的な補償を含め推奨している。

III. 専門研修プログラムの運営方針

当麻酔科研修プログラムは、麻酔科学の基礎（理論や手技）から徐々に高度な内容に移行してゆくが、それは年度毎の階段状のものではない。例えば、手術麻酔の基礎を修了してから一旦集中治療を学んだのちにまた手術麻酔を研修することで、より質の高い麻酔管理を身につけることができる。

当プログラムでは、便宜上４つのコースを用意しているが、各専攻医の希望（将来のサブスペシャルティや、ライフスタイル等）に応じて柔軟に対応する。

緊急手術に対する対応を学ぶために適宜当直を指示するが、勤務上は「夜勤」とすることから翌日は「明け」として帰宅を指示する。働き方改革を実践するホワイトな勤務環境を提供する。

＜研修内容＞

- １年目には基幹施設である湘南鎌倉総合病院で基礎を学ぶ。
- ２年目からは脳神経外科、呼吸器外科、帝王切開、小児麻酔を含む一般麻酔の修練を行う。
- 心臓血管麻酔は、基幹病院で十分な研修を受けることができる。小児心臓麻酔については、埼玉県立小児医療センターまたは神奈川県立こども医療センターで行う。希望者には後半の研修で心臓血管麻酔専門医取得に向けたプログラムを提供する。
- 全てのモデルコースで６ヶ月以上の集中治療研修を行う。
- 麻酔科の幅広い研修として、ペインクリニック及び緩和医療の研修も連携施設において実施する。
- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが，後述の４つのモデルコースを作成し、専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションを提供する。
- 専攻医個々の経験目標症例数の達成状況や要望などに応じて，責任基幹施設および研修連携施設での勤務期間やローテーションは，柔軟に対応するものとする。

＜研修施設＞

- 経験すべき症例については、そのほとんどを基幹病院である湘南鎌倉総合病院で完遂することができる。
- 小児麻酔は埼玉県立小児医療センターまたは神奈川県立こども医療センターで原則６ヶ月研修を行う。
- 集中治療は、湘南鎌倉総合病院のICUで行う。将来的に集中治療を専門にしたい者に対しては、これ

  に加えて自治医科大学附属さいたま医療センター、横浜市立大学附属病院、横浜市立大学附属市民総

合医療センターでの研修も行うことができる

- ペインクリニックの研修は、湘南藤沢徳洲会病院、福岡徳洲会病院あるいは自治医科大学さいたま医療センターで行うことができる。
- 疼痛・緩和医療以外のコースでは、緩和医療に関する研修を湘南鎌倉総合病院所属中に神奈川県立がんセンターで見学形式で行う。

＜研修モデルコース＞

※あくまでもモデル・ローテーションであり、個々のキャリア形成や家庭の事情等に合わせた研修内容でローテーションを行う

<table>
<tr><th rowspan="2">年次</th><th rowspan="2">四半期</th><th colspan="4">コース</th></tr>
<tr><th>標準コース</th><th>心臓血管麻酔</th><th>集中治療</th><th>疼痛・緩和医療</th></tr>
<tr><td rowspan="4">1年</td><td>1</td><td rowspan="4">湘南鎌倉総合病院
麻酔科</td><td rowspan="4">湘南鎌倉総合病院
麻酔科</td><td rowspan="4">湘南鎌倉総合病院
麻酔科</td><td rowspan="4">湘南鎌倉総合病院
麻酔科</td></tr>
<tr><td>2</td></tr>
<tr><td>3</td></tr>
<tr><td>4</td></tr>
<tr><td rowspan="4">2年</td><td>1</td><td>（地域医療）</td><td rowspan="2">湘南鎌倉総合病院
ICU（集中治療）</td><td rowspan="2">湘南藤沢徳洲会病院（ペイン）</td></tr>
<tr><td>2</td><td>湘南鎌倉総合病院
麻酔科</td><td>（地域医療）</td></tr>
<tr><td>3</td><td rowspan="2">湘南鎌倉総合病院
麻酔科</td><td rowspan="2">湘南鎌倉総合病院
ICU（集中治療）</td><td>湘南鎌倉総合病院
麻酔科</td><td>（地域医療）</td></tr>
<tr><td>4</td><td>（地域医療）</td><td>湘南鎌倉総合病院
麻酔科</td></tr>
<tr><td rowspan="4">3年</td><td>1</td><td rowspan="2">湘南鎌倉総合病院
ICU（集中治療）</td><td rowspan="2">小児専門病院[1)]
（小児）</td><td>湘南藤沢徳洲会病院（ペイン）</td><td>湘南鎌倉総合病院
麻酔科</td></tr>
<tr><td>2</td><td>湘南鎌倉総合病院
麻酔科</td><td>神奈川県立がんセンター
（緩和医療）</td></tr>
<tr><td>3</td><td>（選択）</td><td>湘南藤沢徳洲会病院（ペイン）</td><td rowspan="2">クローズドICU[2)]
（集中治療）</td><td rowspan="2">小児専門病院[1)]
（小児）</td></tr>
<tr><td>4</td><td>湘南藤沢徳洲会病院（ペイン）</td><td>（選択）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">4年</td><td>1</td><td rowspan="2">小児専門病院[1)]
（小児）</td><td rowspan="4">湘南鎌倉総合病院
麻酔科（心臓血管麻酔フェローシップ）</td><td>小児専門病院[1)]
（小児）</td><td>湘南鎌倉総合病院
ICU（集中治療）</td></tr>
<tr><td>2</td><td rowspan="2">湘南鎌倉総合病院
麻酔科</td><td rowspan="2">湘南鎌倉総合病院
麻酔科</td><td rowspan="2">湘南鎌倉総合病院
麻酔科</td></tr>
<tr><td>3</td></tr>
<tr><td>4</td></tr>
</table>

1） 小児専門病院：埼玉県立小児医療センターまたは神奈川県立こども医療センター

2） クローズド ICU：自治医科大学附属さいたま医療センター、横浜市立大学附属病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター

＜週間予定表＞

湘南鎌倉総合病院の場合（例）

	月	火	水	木	金	土	日
午前	土曜日代休	手術室	半週休	手術室	手術室	勉強会 手術室	週休
午後	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	週休	週休
夜勤		宿直					

IV. 研修施設の指導体制

1）専門研修基幹施設

●湘南鎌倉総合病院

研修プログラム統括責任者：倉橋　清泰

専門研修指導医：倉橋　清泰（麻酔全般、集中治療、生理学、基礎・臨床研究）
相野田　桂子（麻酔全般、心臓血管麻酔）
石川 亜希子（臨床麻酔）
太田 隆嗣（麻酔全般、心臓血管麻酔、集中治療）
今西　晶子（麻酔全般、小児麻酔）
菊池 佳奈（麻酔全般、小児麻酔、産科麻酔）
渡邊　至（麻酔全般）
春原　啓人（麻酔全般）
吉村　円花（麻酔全般）
黒澤 暁子（臨床麻酔）
勝井 真咲 アン（臨床麻酔）
館山　亜弥（麻酔全般）
西嶋　千絵（麻酔全般）
藤木　翔太（麻酔全般）
ヨナシロ　祥子（麻酔全般）

認定病院番号: 1436

麻酔科管理症例数：7837 症例(2025 年)

特徴：鎌倉市、横浜市、藤沢市という一大医療圏にまたがる地域の中核病院であり、徳洲会グループの中でもフラグシップ病院としての機能を担っています。去年、第 8 版にバージョンアップした JCI を高い成績でクリアし、安全・安心な質の高い医療を提供しています。

麻酔科研修上の特徴を以下に列挙します。

- 豊富な手術件数とバランスのとれた手術内容で、麻酔研修（一般および特殊麻酔）を 3年間で終了させることができます。
- 定型的な心血管手術に加え、低侵襲心臓手術（MICS）、低侵襲カテーテル手術（TAVI, Mitral Clip, 左心耳閉鎖）へも積極的に関与しています。これらの研修を通じて循環管理の要点を習得できます。
- 心臓血管麻酔学会認定医兼JB-POT習得者が複数名おり、経食道心エコーの修得が容易にできます。
- 麻酔科は今の時代手術室だけに留まっていません。当院では、無痛分娩、陽子線治療を受ける小児の鎮静、カテ室での脳血管内治療（DSA）、婦人科の小線源治療など、手術室外の処置に積極的に関与しています。
- 緊急手術が豊富なことから、定型的な手術麻酔とは異なる応用力を身につけることができます。将来「麻酔科専門医です」と言うからには、このような対応を卒なくこなすことが求められます。
- 長年医育機関に勤務し、また学会教育委員を務めていた倉橋主任部長がプログラム統括責任者を務め、総合的に質の高い教育プログラムを提供しています。
- 医療の世界は屋根瓦式教育と言われていますが、専攻医の一つ下の瓦には、４倍近い倍率を潜り抜けてマッチングしてきたやる気に溢れる23人の研修医が収まっています。これの意味するところは、そのような研修医の直属の上司となる専攻医は、彼らに教えながら高いレベルで自身も成長できるということになります。

２）専門研修連携施設

●昭和医科大学横浜市北部病院

研修実施責任者：信太　賢治

専門研修指導医：信太　賢治　　（麻酔全般・ペインクリニック）
岡本　健一郎　（緩和医療・ペインクリニック）
西木戸　修　　（緩和医療・ペインクリニック）
坂本　篤紀　　（麻酔全般・心臓麻酔）
山村　彩　　（麻酔全般）
釋尾　知春（麻酔全般・神経ブロック・経食道心エコ-）
髙橋　健一　　（麻酔全般・心臓麻酔）
道姓　拓也　　（麻酔全般・心臓麻酔）
荘田　博朗　　（麻酔全般）

津島　佑季子　（麻酔全般）
谷本　翔太　（麻酔全般）
松土　桜子　（麻酔全般）
平井　顕　（麻酔全般）
小野　沙恵　（麻酔全般）

認定病院番号：928

特徴：手術麻酔では外科系各科のバランスのとれた豊富な症例数があるため，当院だけでも麻酔科専門医試験に必要な症例数を担当することができます．病院毎の手術症例の違いやサブスペシャルティ領域としての集中治療やペインクリニックの研修を含めて，昭和医科大学病院麻酔科を初めとした多彩な連携病院でオーダーメイドのローテーションを行います．

●公立大学法人 横浜市立大学附属病院

研修実施責任者：長嶺　祐介

専門研修指導医：水野　祐介（臨床麻酔）
菊地　龍明（臨床麻酔/医療安全）
髙木　俊介（臨床麻酔/集中治療）
岡村　健太（臨床麻酔/心臓麻酔）
柳泉　亮太（臨床麻酔/緩和ケア）
増井　健一（臨床麻酔）
東條　彩子（臨床麻酔）
長嶺　祐介（臨床麻酔/集中治療）
横瀬　真志（臨床麻酔/集中治療）
佐々木　誠（臨床麻酔/心臓麻酔）
若山　洋美（臨床麻酔/産科麻酔）
東條　健太郎（臨床麻酔）
出井　真史（臨床麻酔/集中治療）
日暮　亜弥（臨床麻酔/参加麻酔）
横山　暢幸（臨床麻酔/集中治療）
田中　宏幸（臨床麻酔）
越後　結香（臨床麻酔/産科麻酔）
新井　悠介（臨床麻酔）
金丸　栄樹（臨床麻酔/心臓麻酔）

特徴：大学病院本院にふさわしく，全診療科の症例が豊富であり，かつ大手術や高リスクの患者が多く，麻酔科医としてチャレンジングな症例を多く経験できる。産科麻酔分野では無痛分娩を行っている。集中治療分野では，麻酔科医によるクローズ ICU を運営しており，院内のラピッドレスポンスシステムの中核も成している。関連施設との遠隔 ICU システムも構築している。臨床研究にも力を入れ，関連学会への演題発表のみならず，英語論文発表も数多い。手術室から東京湾を臨み，近隣には八景島があるなど，最高の研修環境である。

＊72 研修委員会認定病院取得

＊施設麻酔科管理症例：6618 症例（2025 年度）

●公立大学法人 横浜市立大学附属市民総合医療センター

研修実施責任者：佐藤　仁

専門研修指導医：佐藤　仁　（臨床麻酔/医療安全）
角倉　弘之（臨床麻酔/産科麻酔）
川上　裕理（臨床麻酔/心臓麻酔）
北原　雅樹（ペインクリニック）
小島　圭子（緩和ケア）
後藤　正美（集中治療）
西岡　浩子（臨床麻酔/ペインクリニック）
菅原　陽　（集中治療）
柏木　静　（集中治療）
大川　卓己（臨床麻酔）
藤井　ありさ（臨床麻酔）
美濃口　和洋（臨床麻酔/産科麻酔）
増渕　哲仁（臨床麻酔/心臓麻酔）
松田　優子（臨床麻酔/緩和ケア）
桑原　大輔（臨床麻酔/心臓麻酔）
遠藤　大　（臨床麻酔）
山本　夏啓（集中治療）
森繁　晃子（臨床麻酔）
渕田　瑛　（臨床麻酔）

特徴：高度救命救急センターと神奈川県総合周産期母子医療センターの指定を受ける，横浜市中心部の大学附属病院で，救急（多発外傷・小児外傷など），周産期（緊急帝王切開，産褥出血症例など），循環器（大動脈解離，冠動脈再建術など）の症例が多い。ハイブリッド

手術室をもち，TAVI や MitraClip なども行われている。集中治療部では，麻酔科医によるクローズド ICU 管理が行われている。2017 年度からは集学的慢性痛センターを開始している。無痛分娩もコンスタントに実施している。

＊593 研修委員会認定病院取得

＊施設麻酔科管理症例：7305 症例（2025 年度）

●『宇治徳洲会病院』

研修プログラム統括責任者：竹田　智浩

専門研修指導医：竹田　智浩（麻酔）
槇尾　真理（麻酔）
上田　陽子（麻酔）
佐竹　早紀子（麻酔）
福島　弘子（麻酔）

認定病院番号：1258

特徴：当院は高度救命救急センター（民間病院では全国で 2 番目の認定）、地域がん　診療連携拠点病院地域周産期母子医療センター、脳血管センター（１次脳卒中センターのコア施設）の指定を受けております。
緊急手術も多く、特に京都府南部地域で心臓大血管手術管理の件数が最も多いです。また、外傷センター、四肢接合センターの設立、ハイブリッド ER などの設備も整えております。
ロボット（ダビィンチ・HUGO）手術は、泌尿器科・消化器外科で行っています。
硬膜外ブロックをはじめとした神経ブロック症例も豊富に研修ができます。手術の麻酔管理以外に、ペインクリニック（認定施設）の研修も可能です。サブスペシャリティーは、心臓血管麻酔専門医、集中治療専門医取得が可能です。

麻酔科管理症例数					
麻酔科管理全症例数	小児（6 歳未満）	帝王切開術	心臓血管手術	胸部外科手術	脳神経外科
4471	125	189	276	122	157

●医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院

研修実施責任者：福井　公哉

専門研修指導医：福井　公哉（臨床麻酔・心臓麻酔・集中治療）

指導医：日野　智子　（臨床麻酔・シュミレーション）

大澤　眞理子　（臨床麻酔）

窪田　絹子　（臨床麻酔）

野中　裕子　（臨床麻酔・ペイン）

浅見　優　（集中治療）

今永　和幸　（心臓麻酔）

横内　かつみ　（臨床麻酔）

小出　史子　（臨床麻酔）

小澤　寛子　（臨床麻酔）

小野寺　潤　（臨床麻酔）

増田　義之　（臨床麻酔）

長谷　知美　（心臓麻酔）

樋口　裕樹　（臨床麻酔）

廣田　遥子　（臨床麻酔）

日本麻酔科学会麻酔科認定病院　第879号

特徴：断らない医療をモットーに運営している総合病院である。一般的な手術症例は、偏りが少なく、心臓麻酔、産科麻酔、小児麻酔、脳外科、呼吸器外科、ロボット支援下手術症例も経験することができる。神経ブロックなどの区域麻酔も積極的に行っている。手術症例以外では、経食道心エコー検査に従事しており、経験を積める。集中治療室運営を強化中である。2026 年度からペイン診療を強化し、さらに無痛分娩を開始している。

●『名古屋徳洲会総合病院』

研修実施責任者：　赤堀 貴彦

専門研修指導医：　赤堀 貴彦（麻酔）

畑平 安香（麻酔）

田中 久美子（麻酔）

高柳 博子（麻酔）

加藤 ゆか里（麻酔）

兒玉 絵里（麻酔）

田中　美緒（麻酔）

小林　加奈（麻酔）

専門医： 樋上　拓哉（麻酔）
恒川　亜里紗（麻酔）
富田　新也（麻酔）

日本麻酔科学会認定病院取得（認定病院番号：1133）

特徴：心臓血管麻酔専門医認定施設です。1 年間で 400 件以上の心臓外科手術（開心術は約 310 件）の麻酔管理を行っております。ダビンチを使った心臓手術、 VAD、インペラ、TAVI、M-TEER などの件数も豊富です。緊急手術が多いのも当院の特徴で、A 型解離の緊急手術は年間約 100 件行っております。心臓手術だけではなく消化器、肝胆膵、食道、肺、外傷、関節、脊椎、ダビンチを使った泌尿器科手術、開頭、血管内治療、口腔外科と多彩な手術の麻酔管理を行っております。耳鼻科、産婦人科はありません。

●『福岡徳洲会病院』

研修実施責任者：北川 忠司

専門研修指導医：廣田 一紀（麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）
鳴尾 匡司（麻酔）
北川 忠司（麻酔）
丸内　貴子（麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）
瀬戸口 大典（麻酔、集中治療）
吉野 裕子（麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）
向江 美智子（麻酔、集中治療）
三根　里絵（麻酔）
中村　尚子（麻酔、集中治療）

認定病院番号：689

麻酔科管理症例数：5266症例

特徴：年間10,000件を超える救急車を受け入れており、外傷、くも膜下出血、大動脈解離、急性腹症、帝王切開などの緊急手術症例を数多く経験できる。各科のロボット支援手術や循環器科で行うカテーテル手術（TAVI、MitraClip)の麻酔も実施する。また地域医療支援病院として、地域医療や災害医療の担い手となる実践的な麻酔科専門医を育成する。

●『野崎徳洲会病院』

医療法人徳洲会　野崎徳洲会病院

研修実施責任者：副院長　武富　太郎

専門医：武富　太郎（麻酔科）

認定病院番号：1822

特徴：

・緊急の心臓大血管手術、腸穿孔、くも膜下出血、脊髄損傷などの重症症例が多く、術後管理を含めて周術期管理が学べる。

・外科医との距離が非常に近く、コミュニケーションをとりながらストレスなく麻酔・術後管理が学べる。

・ICU 管理では心臓大血管手術の術後管理、循環不全、呼吸不全（ECMO を含む）、敗血症、代謝性疾患などの内科管理まで幅広い症例を麻酔科が主体となって管理できる。

・院内の人工呼吸装着患者の管理を RST（呼吸管理チーム）としておこなっている。院内急変対応、外来を含めた経食道心エコー検査、気管切開などの小手術も麻酔科で行っており、院内横断的な活躍ができる。

●医療法人 徳洲会　中部徳洲会病院

研究実施責任者：古賀　寛教（集中治療，麻酔）

専門研修指導医：古賀寛教（集中治療，麻酔）

伊波　寛（集中治療）

野村岳志（集中治療・麻酔）

専門医：髙木龍希（麻酔）

認定番号：713

特徴：沖縄県中部ライカムにある急性期中核病院である。屋上ヘリポートをもつ災害拠点病院の役割とともに、最先端医療およびがん診療にも力を入れており、手術支援ロボット 2 台を稼働している。麻酔では、神経ブロック、集中治療では POCUS の研修が可能である。救急医療、離島医療支援の経験も可能である。

●日鋼記念病院



研修プログラム統括責任者：鎌田　康宏
専門研修指導医：鎌田　康宏（麻酔全般）
麻酔科認定病院認定番号: 239
麻酔科管理症例数：症例　1,283件(2025年度)

特徴：北海道室蘭市にある令和7年で創立115年を迎えた総合病院であり、2025年11月に徳洲会グループに加入したばかりです。「医療人として組織として社会を貢献する」を使命として、安全・安心な質の高い医療を提供しています。
麻酔科研修の特徴について下記に示します。
指導方針：麻酔管理を通して呼吸・循環・輸液などの全身管理の知識を修得することを目標としています。研修期間中には術前評価、麻酔法の選択、術中の全身管理、術後回診などの麻酔管理の研修が主になり、数多くの手術管理の研修を行います。
研修目標
・到達目標：麻酔管理を通して呼吸・循環・輸液などの全身管理の知識を修得する
・特徴的な指導内容：術前評価、麻酔法の選択、術中の全身管理、術後回診
メッセージ：研修期間は限られているため、できることには限りがありますが、麻酔科の診療にも興味を持っていただけると嬉しいです。軽症から重症の患者さんに適切な処置ができるように、一緒に学んでいきましょう。

●『埼玉県立小児医療センター』
研修実施責任者：蔵谷　紀文
専門研修指導医：蔵谷　紀文　（麻酔・小児麻酔）
濱屋　和泉　（麻酔・小児心臓麻酔）
古賀　洋安　（麻酔・小児麻酔）
伊佐田　哲朗　（麻酔・小児麻酔）
小嶋　大樹　（麻酔・小児麻酔）
大橋　智　（麻酔・小児麻酔）
駒崎　真矢　（麻酔・小児麻酔）
高田　美沙　（麻酔・小児麻酔）
坂口　雄一　（麻酔・小児麻酔）
藤本　由貴　（麻酔・小児麻酔）
鴻池　利枝　（麻酔・小児麻酔）
専門医：影山　翔一　（麻酔・小児麻酔）
認定病院番号　399

特徴：研修者の到達目標に応じて、小児麻酔・周術期管理の研修が可能。小児鏡視下手術や新生児手術、心血管手術のハイボリュームセンターです。小児がん拠点病院であり、総合周産期母子医療センター、小児救命救急センター、移植センター（肝移植）が併設されています。小児集中治療の研修も可能です(PICU14, HCU20, NICU30, GCU48)。さいたま新都心駅と北与野駅からペデストリアンデッキで直接アクセス可能です。
麻酔科管理症例　3908例（2025年度）

●『葉山ハートセンター』

葉山ハートセンター
研修実施責任者：小出康弘
専門研修指導医：小出　康弘（麻酔）
志村　福子（麻酔）
認定病院番号: 1097

特徴：心臓血管外科手術や不整脈カテーテル治療を行う専門性の追求と地域に根ざした救急医療を行う病院である。対象手術は、開心術、大動脈ステント内挿術、心房細動アブレーション、一般外科、整形外科である。心疾患を持った患者が多く、心臓再手術や心疾患を持つ患者の非心臓手術など幅広く学べる。

●　自治医科大学附属さいたま医療センター

研修プログラム統括責任者：飯塚　悠祐
専門研修指導医：飯塚　悠祐（一般麻酔, 集中治療）
大塚　祐史（心臓麻酔、救急医療）
松野　由以（一般麻酔、ペインクリニック）
佐藤　和香子（一般麻酔）
瀧澤　裕 （緩和ケア、ペインクリニック）
宮澤　恵果（小児麻酔、心臓麻酔）
深野　賢太朗（一般麻酔、集中治療、救急医療）
諏訪　晧士（一般麻酔、心臓麻酔）
斉藤　玲那（一般麻酔）
専門医：大木　紗弥香（心臓麻酔）
澤田　郁美（一般麻酔、救急医療、国際応援）
西山　聖也（一般麻酔、集中治療）
永井　佳裕（一般麻酔、集中治療）
認定病院番号：961

特徴：手術室では、臓器移植を除く全科の症例を扱っています。特に心臓大血管手術、呼吸器外科手術を数多く経験出来ます。また、重篤な併存症を有する患者の麻酔管理を行う機会も豊富です。麻酔科・集中治療部として運営しているため、30 床を有する Closed ICU にて、幅広い疾患の患者管理を経験することも可能です。ICU では特に機械的補助循環（ECMO、IMPELLA、IABP、CRRT など）の管理、重症呼吸不全の呼吸管理を、数多く経験出来ます。

麻酔科管理症例数　6297 例　（202 5 年度）

●『榛原総合病院』

研修実施責任者：森田信敏

専門研修指導医：秋永泰嗣

専門医：秋永泰嗣

認定病院番号：1327

特徴：地域唯一の中核病院として地域医療を守る病院。

手術症例は年間約 2,200 件（整形外科 700 件、心臓外科 50 件、外科 350 件、泌尿器科 100 件、口腔外科 900 件、その他 100 件）

麻酔科管理症例数：150 症例

麻酔研修指導医の人数：　0.3 名

麻酔科管理全症例数：　150 症例

小児（6 歳未満）の麻酔：　－

帝王切開の麻酔：　－

心臓血管手術の麻酔：　10 症例

胸部外科手術の麻酔：　2 症例

脳神経外科の麻酔：　－

●『国際親善総合病院』

研修プログラム統括責任者：佐藤　玲恵

専門研修指導医：佐藤　玲恵（麻酔一般）

山田　理恵子（麻酔一般）

藤井　裕人（麻酔一般、集中治療）

横山　雄樹（麻酔一般）

吉藤　正泰（麻酔一般、緩和医療）

専門医：佐藤　玲恵（麻酔一般）

山田　理恵子（麻酔一般）

藤井　裕人（麻酔一般、集中治療）

横山　雄樹（麻酔一般）

吉藤　正泰（麻酔一般、緩和医療）

大井　智（麻酔一般）

認定病院番号：787

特徴：

・地域の中核病院として、一般的な多岐にわたる手術症例がある

・病床数に比し、豊富な症例数を経験することができる。

・他科との連携が良好で、麻酔科医の個性を生かした麻酔をトライできる。

●『神奈川県立こども医療センター』

研修プログラム統括責任者：中村　信人

専門研修指導医：中村　信人（小児麻酔）

三浦　倫一（麻酔）

蜂屋　好子（麻酔、小児麻酔）

山口　恭子（小児麻酔、心臓血管麻酔）

青木　真理子（麻酔）

小林　憲弥（麻酔）

中森　亜葵（麻酔）

認定病院番号：88

特徴：当院の手術室では小児の外科分野全科の手術を行っています。新生児症例や小児心臓血管外科の症例も豊富で小児麻酔を広く経験できます。外科各科や NICU、ICU との連携、関係は良好ですので周術期の管理についても深く学ぶ事が可能です。

●『地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター』

研修実施責任者：佐々木 俊郎

専門研修指導医：佐々木　俊郎(臨床麻酔)

太田　周平（緩和医療）

古賀　資和（臨床麻酔）

山本　匠（臨床麻酔）

特徴：

・神奈川県のがん診療の拠点病院であり，胸部手症例が豊富。

・指導者層が厚く丁寧な指導が行うことができる。

・緩和ケアの研修も可能である。

*242 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 3637 症例（2025 年度）

V. 募集要項

1） 定員

4 名（専門コースは各1 名）

募集定員は経験必要症例数が賄えるのは無論のことであるが、4 年間の研修が効率的に行うことができる人数とする

複数のプログラム に入っている施設は，各々のプログラムに症例数を重複計上しない

2）専攻医の採用と問い合わせ先

◆ 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに志望の研修プログラムに応募することとする

◆ 問い合わせ先

湘南鎌倉総合病院 麻酔科専門研修プログラム

麻酔科主任部長 倉橋 清泰

神奈川県鎌倉市岡本 1370-1

TEL：0467-46-1717（代表）

Email：shonanmasui@shonankamakura.or.jp

見学申込：https://recruit.skgh.jp/senior/contact/

参考：https://www.skgh.jp/department/anesthesiology/

VI. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

1）専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4 年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる

具体的には 専攻医は専門研修を通じて下記４つの資質を修得した医師となる

◆ 十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能

◆ 刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力

◆ 医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣

◆ 常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

２）麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた　専門知識　専門技能　学問的姿勢医師としての倫理性と社会性　に関する到達目標を達成する

３）麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた 経験すべき疾患・病態 経験すべき診療・検査 経験すべき麻酔症例 学術活動 の経験目標を達成する

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる

４）専門研修方法

別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた①臨床現場での学習 ②臨床現場を離れた学習 ③自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、度を修得する

５）専門研修中の年次ごとの知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA-PS１～２の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導の元、安全に周術期管理を行うことができる

専門研修 2 年目

1 年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪い ASA-PS３の患者の周術期管理や ASA-PS１～２の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる

専門研修 3 年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる、また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

VII. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

1）形成的評価

◆研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される

◆専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し研修実績および到達度評価表指導記録フォーマットによるフィードバックを行う

研修プログラム管理委員会は各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる

2）総括的評価

研修プログラム管理委員会において専門研修4年次の最終月に専攻医研修実績フォーマット研修実績および到達度評価表指導記録フォーマットをもとに研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識 ②専門技能 ③医師として備えるべき学問的姿勢倫理性、社会性適性等を修得したかを総合的に評価し専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する

VIII. 専門プログラム修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標経験すべき症例数を達成し知識技能態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である

各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において研修期間中に行われた形成的評価総括的評価を元に修了判定が行われる

IX. 専攻医による専門研修指導医及び研修プログラムに対する評価

専攻医は 毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い研修プログラム管理委員会に提出する

評価を行ったことで専攻医が不利益を被らないように研修プログラム統括責任者は 専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある

研修プログラム統括管理者はこの評価に基づいてすべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する

X. 専門研修の休止・中断・研修プログラムの移動

1）専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う
- 出産あるいは疾病などに伴う 6 ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して 2 年迄休止を認めることとする※休止期間は研修期間に含まれない
- 研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して 2 年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない
  →ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める

2）専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は 研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする

専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる

3）研修プログラムの移動

専攻医はやむを得ない場合研修期間中に研修プログラムを移動することができる。

- ◆ 移動元移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある
- ◆ 麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める

XI. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には地域医療の中核病院としての湘南鎌倉総合病院、湘南藤沢徳洲会病院、横浜市立大学附属病院、横浜市立大学附属市民総合医療センターなど幅広い施設と連携している。

- ◆ 医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

XII.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation)も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導する。